

多高通信



第232号 令和7年2月27日発行
さどく ゆたかに たくましく
宮城県多賀城高等学校

災害科学科1学年

先端研究講話を実施しました！



12月17日(月)に、本校が連携 協力協定を締結している東北大学災害科学国際研究所から、佐藤健教授(防災教育実践学分野)、柴山明寛准教授(災害文化アーカイブ研究分野)、朴慧晶助教(災害医療国際協力学分野)、原裕太助教(2023 国際防災アジェンダ推進オフィス)を講師としてお招きし、それぞれ4つのブースに分かれ、10名前後の生徒に對する45分間の講義・質疑応答を、休憩を挟んで2回行いました。テーマA「発災時に命を守る行動をとるフェーズにおける研究」では、佐藤先生から

「緊急地震速報の活用」、原先生から「災害と環境」についてご講義いただき、テーマB「復旧・復興に向けて避難生活を送るフェーズにおける研究」では、柴山先生から「災害とエネルギー」、朴先生から「災害と医療ーパンデミック災害におけるシヨッピングモールの避難所への活用」についてご講義いただきました。どのブースでも時間いっぱいまで研究内容に関する質問や課題研究に関する相談をさせていたいただき、今後の課題研究の参考となりました。



語学研究部

「たがさぼのクリスマス雑貨市2024」に参加しました！



12月8日(日)に、多賀城市市民活動サポートセンターで行われた「たがさぼのクリスマス雑貨市2022

4」に参加しました。多賀城市国際交流協会さんと合同で出店し、フェアトレード商品について説明をしながら販売を行いました。今回はバンングラデシユとネパールで、身近にある素材や暮らしに息づく伝統文化を大切に物づくりを通じ、生産者の生活向上に取り組む国際協力NGOシヤプナールのフェアトレード商品を販売させていただきました。フェアトレード商品販売によって社会的に、地理的に雇用の機会に恵まれない特に女性への収入の道を開き、またこの活動で仕事をしながら、技術を学び、その収入を活かしながら家族とともに支え、より豊かな未来を築く社会の一員として生活ができるよう支援することを目指します。また、他のブースには地元多賀城市や宮城県内で様々な活動をしている団体が出店し、その活動内容や制作商品などを知ることができ新しい視点ももつことができました。

普通科三学年

「ウニの実験観察」特別授業



1月30日(金)と2月4日(火)の2日間、アプローチ生物(3年文系選択)の授業で、バフンウニの受精と発生の実験・観察を行いました。生徒達は、初め

での体験に、少し緊張しながらも興奮した面持ちで、真剣に観察していました。

【生徒感想】

・自分達の手で受精させた受精卵が元気に動き回っているのを見るのは、感慨深かった。
・受精の瞬間を見ることができたので嬉しかったです。
・発生の進むペースが早く、4日後に活発に動くまで進んでいて驚きました。
・くるくる回ったり不思議な形をしていたり、変化しながら、私たちの知っているウニに成長するのは不思議で面白いと思った。

家庭部

お弁当が販売されました！

昨年10月に宮城大学太白キャンパスで行われた「令和6年度高校生地産地消お弁当コンテスト」で家庭部2年の佐藤瑠香さん、岡田愛佳里さん、1年小野寺夢華さんが考案した「みんなの心をわし掴み！海のダブルパティ弁当」が優秀賞を受賞し、2月15日からみやぎ生協各店でそのお弁当が期間限定(4000食限定)で販売されました。お弁当の中身は、カツオとメカジキを挟んだライスバーガー、野菜がたっぷり入った肉団子、パプリカときゅうりのツナぶしサラダ、笹かまぼことにんじん・ほうれん草のごま和えで、どれも3人のこだわりがたっぷりつまったお弁当に仕上がりました。「ご興味いただいた皆さま、ありがとうございます。」

